



北海道大学 社会科学実験研究センター

2018 年度自己点検評価報告書

2019 年 6 月



北海道大学 社会科学実験研究センター
2018年度自己点検評価報告書(2019年6月)

※センターの沿革などについてはホームページへ移行しました。ご参照いただければ幸いです。
<https://lynx.let.hokudai.ac.jp/cerss/>

1. 社会科学実験研究センターとは

(1) センターの理念

- ・社会科学における実験研究のための手法の開発と普及を通して、社会科学の実験科学化を推進する。
- ・社会科学における実験研究の本格的導入により、人間科学と社会科学の双方に対して共通の対話可能な研究環境を提供する。
- ・人間・社会科学における実験研究のための国際実験ネットワークの構築を進め、世界各国の拠点を結ぶ国際実験の促進をめざす。
- ・実験研究を通して人間科学と社会科学とを結びつけるための研究活動を行い、その成果を国際的に発信することのできる若手人材を育成する。

(2) センターの主たる役割

- ・社会科学実験の国際拠点として、先端的研究を展開し、研究成果を国際発信する。
- ・社会科学実験の中心として、他大学の研究者との協力のもと、若手研究者を育成する(博士研究員・リサーチャーの受け入れ、ワークショップの開催等)。

(3) 施設概要

北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟6階に、1) 集団実験室、2) 国際ネットワーク実験室、3) 感覚システム実験室を有している。これらの実験設備は、国際的にも最高水準の社会科学実験施設である。

2. 2018年度の活動実績の概要

(1) 施設利用

- ・実験室稼働総日数：年間延べ182日
- ・利用プロジェクト総数：18件(うち外部利用7件)
- ・実験参加者総数：延べ1,979名

(2) 研究業績

- <人文・社会科学系の兼務教員に限定>
- ・著書・分担執筆：計13件(うち洋書1件、和書12件)
 - ・学術論文：計34件(うち国際誌20件、国内誌14件)
 - ・学会発表：計64件(うち国際学会25件、国内学会39件)
- (詳細は「p.7~11 研究業績一覧」参照)。

(3) 競争的資金獲得

- ・44件、総額591,325千円
 - ・内訳：科学研究費補助金34件(579,850千円)
- (※分担者に関しては交付総額を参入)、その他の研究助成金等10件(11,475千円)(詳細は「資料5 競争的資金獲得状況(p.5~6)」参照)

(4) 拠点間連携

海外の先端研究拠点との連携を引き続き推進している。2015年度には、オックスフォード大学認知進化人類学研究所所長、また同大学社会人類学科学科長であり、著名な認知人類学者である **Harvey Whitehouse** 教授、2016年度には、香港科技大学社会科学部准教授であり、環境・文化心理学を専門とする **Kim-Pong Tam** 准教授を本センターの連携研究員に採用した。前センター長の結城は、オックスフォード大学が主導する心理学・人類学・歴史学を融合して人間行動と文化の進化と発展を検討する世界的共同研究プロジェクト **Seshat** へ参画し、センター長の大沼進教授は **Kim-Pong Tam** 准教授との共同研究を推進している。また、2017年度には立命館大学総合心理学部の仲真紀子教授を連携研究員に採用した。

(5) 若手研究者の支援とその成果

- ・本センターでの活動を基盤とする大学院生の競争的外部資金獲得：6件、学術賞：3件(表1)
- ・日本学術振興会特別研究員：3名(表2)

表1 2018年度に院生および研究員が獲得した学会賞・学術賞・フェローシップ・研究助成

氏名	獲得年度	学会賞・学術賞・フェローシップ
岡松彦	2018	2018年度ノバルティス研究助成「統合失調症の病態進行におけるNMDA受容体サブユニットの変化に関する実験的検討」
舘石和香葉	2018	北海道大学大学院文学研究科 研究支援プログラム 共生の人文科学プロジェクト 旅費支援
中田星矢	2018	北海道大学大学院文学研究科 研究支援プログラム 共生の人文科学プロジェクト 旅費支援
中田星矢	2018	日本人間行動進化学会第11回大会 若手発表賞(ポスター発表部門)
本間祥吾	2018	北海道大学大学院文学研究科 研究支援プログラム 共生の人文科学プロジェクト 旅費支援
本間祥吾	2018	日本社会心理学会「若手研究者奨励賞」
蒔苗詩歌	2018	公益財団法人科学技術融合振興財団 補助金助成
横山実紀	2018	日本社会心理学会「若手研究者奨励賞」
横山美紀	2018	北海道大学大学院文学研究科 研究支援プログラム 共生の人文科学プロジェクト 旅費支援

表2 日本学術振興会特別研究員

氏名	資格	受給期間 (年度)	研究費 (千円)	研究課題名
伊藤 資浩	DC1	2017～ 2019	1,000	注意ネットワーク理論に基づく注意の意図的制御メカニズムとその神経基盤
蒔苗 詩歌	DC2	2017～ 2018	900	物体軸の捉えと操作への身体化認知の関わりと発達障害特性：不器用さへの支援に向けて
亀田 将史	DC1	2018～ 2020	1,000	大脳基底核と小脳の時間情報処理に関する研究

(6) 教育活動

- ・大学院共通授業科目「入門ベイジアン・モデリング」を開講した。
- ・Hokkaido Summer Institute 2018 プログラムで本学に招聘された世界第一線の文化心理学者（アルバータ大学心理学部・増田貴彦教授）から、授業以外の場で大学院生への指導を直接行ってもらうなど、社会科学実験研究センターとしての独自の取り組みも行うことで、同事業との相乗効果をはかった。
- ・CERSS コロキウム、共催ワークショップや学術セミナーを随時開催した。



図1 増田教授による大学院生への指導風景

3. 2018年度の活動の点検・総括

(1) 4つの目標別の点検・評価

- ① 社会科学実験の国際拠点としての先端研究の展開
実験室稼働日数は年間延べ182日、実験への参加者総数は延べ1,979名であった。このうち、本学外の研究者による利用延べ件数は7件、実験参加者総数は1,072名であった。参加者のほとんどは本学の学生であったが、この規模での実験研究の組織的推進は国内において類例がなく、国際的にも屈指の規模である。
- ② 社会科学実験分野における有為の若手人材の育成
「若手研究者の支援とその成果」(p.1)で述べたように、2018年度において、本センターに活動基盤を置く若手研究者は3件の学術賞を得た。また、日本学術振興会の特別研究員として3名が採用されると共に、6件の競争的外部資金（特別研究員奨励費

3件を除く)を獲得している。また2018年度には、CERSS コロキウムを3回実施した。さらに、Hokkaido Summer Institute 2018 事業としてアルバータ大学との協働サマープログラムを開催し、アルバータ大学心理学部の増田貴彦教授による集中講義「Frontiers in Cultural Psychology 2018」、および大学院生向けの英語論文執筆ワークショップを開講した。

これまで当センターで教育指導を受けた若手研究者は、実験社会科学を担う有為の人材として国内外で高く評価されていると共に、就職面でも、東京学芸大学准教授、滋賀大学准教授、高知工科大学講師、明治学院大学准教授、北海道大学特任助教、岩手医科大学助教、玉川大学准教授、宮城学院女子大学准教授、広島大学特任助教、広島修道大学教授、静岡大学特任准教授、大正大学准教授、北星学園大学専任講師、安田女子大学講師、帝京大学講師などの研究職を得ている。これらに加えて、2018年度以降には新たに名古屋大学准教授、高知大学特任准教授、大東文化大学講師、作新学院大学准教授として新たに職を得ている。さらにSouthampton 大学(英国)助教授やWilliam & Mary 大学(米)准教授、嶺南大学(香港)准教授、北京中央民族大学(中国)研究助手として、また、St Andrews 大学(英)やOxford 大学(英)、Melbourne 大学(豪)のポストドク研究員として海外でも活躍している。

以上のように「社会科学実験分野における有為の若手人材の育成」という所期の目標が着実に達成されている。

③ 国際的にインパクトのある研究成果の発信

2018年度には、計47本の国際学術論文、31件の国際学会発表がなされた。センター構成員による学術論文は、Scientific Reports、PNAS (Proceedings of National Academy of Science) (総合科学)、Judgment and Decision Making (心理学)、NeuroImage (脳神経科学) など広範な研究領域における第一線の国際学術誌に掲載された。また、これらを含む本センター構成員による論文は、心理学、経済学、経営学、社会学、政治学、法学、人類学、情報科学、進化生物学、動物行動学、社会物理学など、やはり広範な領域の国際学術誌において数多くの引用を受けている。図2は、本センター構成員が発表した論文の国際学術誌における引用回数の推移を示している。この図から、本センターが発足した2007年以降、国際業績が着実に増加傾向にあることがわかる(注：本センターには、2013年度より新たに医歯薬系部局からの兼務教員が加わったため、国際学術論文の被引用数が急増している。しかし、人文学系と医歯薬系では根本的に被引用論文数に大きな相違があることから、公正に業績を評価するために、2012年度までの構成員による研究成果のみを掲載する。若手研究者が第一著者として公刊した国際学術誌論文数についても、医歯薬系を除いた成果を掲載する)。以上のように、「国際的にインパクトのある研究成果

の発信」という所期の目標の達成に向け、着実な進展が見られる。

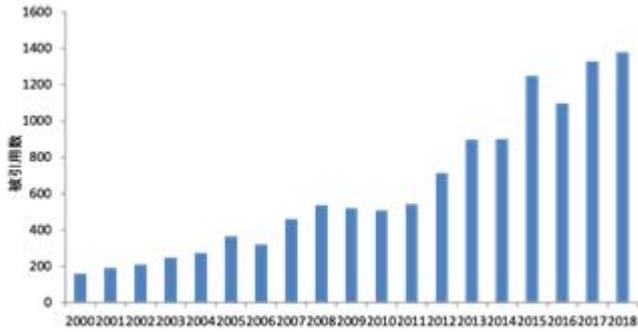


図2 国際学術誌における論文被引用数の推移。

④ 国内外の研究拠点との連携強化を通じた、人間・社会科学における実験研究のための国際ネットワークの構築

本センターは、大型研究資金（新学術領域研究、科研費基盤Sなど）の獲得などを通じて、国内外の主要研究拠点（東京大学人文社会系研究科・総合文化研究科、京都大学霊長類研究所、玉川大学脳科学研究科、北陸先端総合科学大学院大学、名古屋大学情報学研究科、英オックスフォード大学認知進化人類学研究所、独マックスプランク進化人類学研究所など）との間に共同研究体制を構築している。こうした活動は本学における研究戦略とも密接に関連しており、例えば、「世界レベルで見て北大に優位性のある研究分野」の一つに「心の社会性に関する研究」が選ばれており、社会科学実験研究センターがその研究基盤を提供していることにも表れている。

文科省「最先端研究基盤事業」の補助対象事業として採択された「心の先端研究のための連携拠点（WISH）構築」事業の一環として、2011-2012年度予算により、京都大学こころの未来研究センター、東京大学進化認知科学研究センター、そして、本センターの3拠点に対して、拠点間の研究連携を強化するために、最新型のMRI装置が導入された。本センターに関しては、2012年度補正予算（施設整備費補助事業;3億円）によってシーメンス社製3テスラMAGNETOM Prismaが導入され、2014年4月より稼働を開始している。同装置は本学医歯学総合研究棟に設置され、本センターに所属するメンバーだけでなく、医学系から理学系、教育学系に至る全学の研究者によって利用されている。本装置の導入を通じて、学内の部局間に加え、学内外の先端研究拠点間の壁を超えた研究連携が推進されている。

（2）総括と今後の展望

以上のように、本センターは、教育および研究活動を通じて、社会科学実験の国際的中核拠点としての高い評価を確立してきた。こうした実績は、「社会科学実験に関する教育研究の進展に資することを目的とする」という本センターの設立目的（北海道大学社会科学実験研究センター規程第2条）に適うものである。

本センターの今後の展望については、まず、本センターに所属する研究者、および国内外の社会科学者の実験研究を引き続き支援することを通じて、社会科学実験の国際的中核拠点としてなお一層の発展を目指す。これに関連して、本センターの構成員と国内外の先端研究拠点の研究者との共同研究とネットワークをさらに支援していく。加えて、実験社会科学の推進という本センターの目標の独自性を活かしながら、文理融合あるいは分野横断的な研究を牽引していく。例えば、脳科学やAI、データサイエンスといった近年急速に社会的要請の高まっている分野に関する学内外の諸センターや拠点等の橋渡し役も務めていく。

以上のような活動は、今世紀に入り世界的に急速に進展しつつある人文・社会科学の実証研究化への流れと、それに伴う新たな理論展開に貢献するものである。それと同時に、当センターの活動は、現代社会が直面する様々な社会問題の解決にも資するものである。それは、本センターが展開する研究・教育活動が、社会と人間との間の相互構成関係という本質的な問題を扱い、それを可視化して様々な立場の人が共通の土俵で議論することを可能にするためである。本センターは社会科学実験の国際的中核拠点として、当該分野の研究者の研究・教育活動を今後も鋭意支援していく。人文・社会科学分野における屈指の先端研究拠点として、当該分野における実験研究の国際的・学際的進展と普及に努めつつ、来るべき「人間科学と社会科学の統合」に向けた世界的役割を果たしていくことが、本センターに引き続き課せられた重要なミッションである。

資料1 CERSS コロキウム、共催ワークショップおよび学術セミナー

(2019年1月、実験参加者数168名)

日付	タイトル	講演者
2018/8/21	Rice theory from kindergarten to undergrad, 1964 the year GDP broke, and will modernization wipe out traditional culture?	Thomas Talhelm (Behavioral Science at the University of Chicago Booth School of Business, 助教)
2018/9/27	ビッグデータと社会・文化心理学(The use of big data in social and cultural psychology)	浜村 武 (Curtin University・国際交流基金フェロー)
2018/12/20	Corruption as a Process of Political and Social Cognition	Joseph Pozsgai (京都大学東南アジア地域研究研究所, 特定助教)

資料2 長期受け入れ外国人研究員

2018年度	Dr. Christopher Kavanagh (University of Oxford)
2018年度	Briar Irving (Victoria University of Wellington)

資料3 学外研究機関との共同研究による施設利用実績

社会科学実験研究センターの実験施設は、学内外の研究者が利用可能な共同利用施設である。2018年度には、学外研究機関との共同研究による実験施設の利用が7件行われており、実験参加者数は延べ1,014名であった。

学外研究機関との共同研究で実施された実験(2018年度)

- ・山岸俊男 (一橋大学大学院国際企業戦略研究科) 「集団状況での個人間取引に関する実験5」(2018年5月、実験参加者数132名)
- ・亀田達也 (東京大学大学院人文社会系研究科) 「意思決定課題における社会学習実験」(2018年8月、実験参加人数165名)
- ・亀田達也 (東京大学大学院人文社会系研究科) 「行動選択に関する集団実験」(2018年8月、実験参加人数120名)
- ・亀田達也 (東京大学大学院人文社会系研究科) 「不確実刺激の知覚プロセスに関する実験」(2018年8月、実験参加人数80名)
- ・亀田達也 (東京大学大学院人文社会系研究科) 「分配の社会的決定に関する実験」(2018年8月、実験参加人数186名)
- ・亀田達也 (東京大学大学院人文社会系研究科) 「分配の意思決定に関する態度調査」(2019年1月、実験参加人数163名)
- ・清成透子 (青山学院大学社会情報学部) 「集団状況での個人間取引に関する実験6」

資料4 アウトリーチ活動

日付	タイトル	活動内容	実施者
2018/6/8	札幌市経済観光局『商品開発×インバウンド』セミナー「土産品購買行動のお国柄？新千歳空港調査の結果から」	講演	結城雅樹
2018/5/14	NHK BS1「国際報道2018」ウマにおけるヒトの表情記憶の研究に対するコメント	取材対応	瀧本彩加
	「ウマにおけるヒトの情動のクロスモーダルな認知の研究」に関するプレスリリース		
2018/6/22	NHK「おはよう日本」北海道新聞・読売新聞・共同通信	取材対応	瀧本彩加
2018/8/30	朝日小学生新聞		
2019/3/27	NHK「又吉直樹のヘウレーカ！」		
2018/7/25	札幌市経済観光局「平成30年度札幌市観光商材開発支援事業」	審査委員	結城雅樹
2018/8/18, 19	上級経営会計専門家プログラム(京都大学)「意思決定と会計」	講演	篠田朝也
2018/9	三省堂書店札幌店「北大の先生が選んだ本」	書籍の紹介	瀧本彩加
2018/10/1	NHK BS1「国際報道2018」ヤギにおけるヒトの笑顔選好の研究に対するコメント	取材対応	瀧本彩加
2018/10/9-10/12	netkeiba.com ノンフィクションファイル『英科学誌に発表された研究「馬は人の感情を読み取る」細江純子さんが北大准教授を直撃【第1回～第4回】』インタビュー記事	取材対応	瀧本彩加
2018/10/30	北海道札幌開成中等教育学校 Future job session「my study academia」	講演	中田星矢(修士学生)
2018/11/12	酪農学園大学特別セミナー「求め合うこころーヒトと伴侶動物が育んできた絆ー」	講演	瀧本彩加
2018/10-2019/3	札幌市まちづくり政策局「札幌市における他者とのつながり、多様性、信頼等に関する調査」	助言・指導	大沼進
2018/12/1	札幌市環境局「さっぽろこども環境コンテスト」	審査委員長	大沼進

資料5 競争的資金獲得状況の詳細

文部科学省科学研究費（代表）

（社会科学実験研究センター構成員が代表を務める研究について、2018年度に交付された直接経費の総額）

資金名	期間	代表者	金額 (千円)
研究課題			
新学術領域 (研究領域提案型)	2018~2019	田中真樹	
周期的な感覚入力に対する予測信号の解析			2,200
新学術領域研究 (研究領域提案型)	2018~2023	田中真樹	
知覚や行動に伴う心的時間の脳内機構とその操作			54,100
国際共同研究加速基金	2018~2019	竹澤正哲	
文化的集団淘汰と規範の進化：マクロ・データと大規模集団実験による実証的検討			11,100
基盤研究 (A)	2016~2020	宮内泰介、他 18 名	
不確実性と多面的価値の中での順応的な環境ガバナンスのあり方についての社会学的研究			7,900
基盤研究 (B)	2015~2018	結城雅樹	
社会の制約と個人の制約—対人行動戦略に対する関係流動性と市場価値の交互作用効果			3,300
基盤研究 (B)	2018~2021	高橋伸幸	
利他性とサンクション、偏狭さ、外集団攻撃の間の連動についての理論的・実証的研究			2,700
基盤研究 (B)	2016~2018	吉岡充弘・他 3 名	
人工受容体 DREADD による恐怖記憶の制御機構の解明			2,700
基盤研究 (B)	2017~2020	河原純一郎・小川健二	
注意の逆説的投資効果とニューロフィードバック			4,400
基盤研究 (B)	2017~2021	竹澤正哲・堀田結孝	
帰納的学習を介した規範の進化と維持：新たな実験パラダイムの構築を目指して			2,900
基盤研究 (B)	2017~2019	田中真樹	
霊長類における皮質線条体経路の動的制御機構			5,500
基盤研究 (C)	2017~2019	河西哲子	
知覚の体制化に基づく注意選択メカニズムとその個人差			700
基盤研究 (C)	2015~2018	篠田朝也	
資本予算におけるリスク管理の実証研究			600
基盤研究 (C)	2018~2020	松尾睦	
組織メンバーの自己成長主導性メカニズムに関する研究			500
挑戦的萌芽研究	2017~2020	宮内泰介、他 2 名	
イワシ漁業に見る社会—生態システムのレジリエンス			1,800
挑戦的萌芽研究	2016~2018	高橋伸幸	
信頼関係形成状況における適応的行動の解明			700
若手研究	2018~2020	瀧本彩加	
ウマにおける同種他個体・ヒトとの社会的絆形成を促す心理・生理要因に関する研究			1,300
若手研究 (A)	2017~2018	小川健二	
運動学習に対する安静時脳活動の影響とニューロフィードバックによる促進			4,400
若手研究 (B)	2016~2019	村田明日香	

負の情動における他者存在効果に関する社会神経科学的研究			700
特別研究員奨励費	2018~2020	村田明日香	
表情認知の文化差と顔部位への注意：神経科学的手法を用いた検討			1,100

文部科学省科学研究費（分担）

（社会科学実験研究センター構成員が分担者を務める研究について、2018年度に研究代表者へ交付された直接経費の総額）

資金名	期間	代表者	金額 (千円)
研究課題			
新学術領域研究 (研究領域提案型)	2017~2022	竹澤正哲（代表：橋本敬、他 7 名）	
言語の起源・進化の構成的理解			45,100
新学術領域研究 (研究領域提案型)	2016~2022	渡辺雅彦（代表：狩野方伸、他 31 名）	
先端バイオイメージング支援プラットフォーム			313,500
新学術領域研究 (研究領域提案型)	2014~2018	瀧本彩加（代表：鮫島和行、他 2 名）	
人=動物インタラクションにおける行動動態の分析と認知モデル化			1,750
基盤研究 (S)	2016~2021	竹澤正哲（代表：亀田達也、他 6 名）	
集合行動の認知・神経・生態学的基盤の解明			26,800
基盤研究 (S)	2015~2019	高橋伸幸（代表：山岸俊男、他 5 名）	
向社会行動を支える心と社会の相互構築			28,400
基盤研究 (A)	2017~2021	宮内泰介（代表：丸山康司、他 10 名）	
エネルギー技術の多元性と多義性を踏まえたガバナンス方法の研究			10,400
基盤研究 (A)	2017~2020	小川健二（代表：明和政子、他 2 名）	
身体的表象から自己分離表象にいたる発達プロセスの解明			8,100
基盤研究 (B)	2016~2020	竹澤正哲（代表：大平英樹、他 5 名）	
紛争と協力の文化進化的基盤に関する学際的研究			6,110
基盤研究 (B)	2016~2019	宮内泰介（代表：菅豊、他 8 名）	
パブリック・ヒストリー構築のための歴史実践に関する基礎的研究			4,000
基盤研究 (B)	2016~2018	大沼進（代表：広瀬幸雄、他 4 名）	
高レベル放射性廃棄物地層処分合意形成での手続き的・分配的公正機能の日欧比較			4,000
基盤研究 (B)	2017~2020	小川健二（代表：今泉寛、他 1 名）	
予測誤差と運動主体感をつなぐ神経機構の解明			1,700
基盤研究 (B)	2017~2022	宮内泰介（代表：関礼子、他 6 名）	
語り継ぐ存在の身体性と関係性の社会学—排除と構築のオラリティ			3,200
基盤研究 (B)	2018~2020	宮内泰介（代表：西城戸誠、他 6 名）	
再生可能エネルギー事業開発にかかわるアクティビズムと合意形成に関する比較研究			5,850
基盤研究 (C)	2018~2020	小川健二（代表：柴田寛、他 1 名）	

多感覚の表象に基づく言語の理解と表出に関わる脳機能モデルの構築	900
基盤研究 (C)	2016~2018 篠田朝也 (代表: 梶原 武久、他1名)
原価企画における原価作りこみエラーの発生メカニズムと解決方法 に関する研究	5,330
基盤研究 (C)	2017~2020 高橋泰城 (代表: 守真太郎、他2名)
集合知の情報集約過程の定量的記述と社会的学習の影響	800
挑戦的萌芽研究	2016~2018 宮内泰介 (代表: 佐藤喜和、他1名)
自然科学と社会科学の融合による都市の環境共生と野生動物管理の調和的実現への挑戦	900

文部科学省科学研究費を除く研究助成
(社会科学実験研究センター構成員が代表及び分担者を務める研究について、2018年度に研究代表者へ交付された直接経費の総額)

資金名	期間	代表者	金額 (千円)
研究課題			
日本学術振興会『課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業』領域開拓プログラム	2017~2020	竹澤正哲、他5名	
アイデンティティの内的多源性: 哲学と経験科学の協同による実証研究の展開			3,770
日本学術振興会『課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業』実社会対応プログラム	2015~2018	大沼進、他5名	
私益と共益が錯綜する公共的意思決定のプロセスデザインに関する研究			1,800
科学技術融合振興財団 平成28年度調査研究助成	2017~2019	大沼進、他1名	

研究業績一覧

2018年度

【著書・分担執筆 (洋書)】

Miyauchi, T. (2018). Adaptive Process Management: Dynamic Actions Toward Sustainable Societies. In Sato, T., Chabay, I., & Helgeson, J. (Eds.) *Transformations of Social-Ecological Systems: Studies in Co-creating Integrated Knowledge Toward Sustainable Futures*. 159-168, Springer, Singapore.

【著書・分担執筆 (和書)】

尾崎一郎. (2019). 新注釈民法 物権 2 区分所有法: 法社会的考察, 有斐閣.
尾崎一郎. (2019). グローバリゼーション. 佐藤岩夫・阿部昌樹編. スタンダード法社会学, 北大路書房・京都.
尾崎一郎. (2019). 紛争行動/法使用行動と法文化について. 松本尚子編. 法を使う/紛争文化(法文化叢書第17巻), 国際書院・東京.
尾崎一郎・郭薇・李楊・堀田秀吾. (2019). ヘイト・スピーチの規制と無効化-言語行為論からの示唆-. ダニエル・フット他編. 法の経験的社会科学の確立に向けて-村山眞維先生古稀祝賀-, 信山社・東京.

”将来の代弁者”は合意形成を促進するか: 「未来との対話」としてのゲーミングシミュレーション再考	340
公益社団法人日本心理学会: 災害からの復興のための実践活動及び研究	2018~2019 大沼進
除去土壌再生利用の社会的受容に関する研究	150
地層処分に係る社会的側面に関する研究	2018~2019 大沼進 (代表: 野波寛、他4名)
地層処分をめぐる多様な人々の合意を目指す段階的・協調的アプローチの提唱: 社会心理学の知見にもとづく多角的検証	2,310
三井物産環境基金: 三井物産環境基金研究助成	2017~2019 宮内泰介
災害後のコミュニティ再編と自然資源管理の再構築に関する研究	1,180
公共財団法人 喫煙科学研究財団 研究助成	2018 吉岡充弘、他1名
光遺伝学を用いたニコチン離脱症状に関わるセロトニン神経回路の解明	200
公共財団法人 加藤記念バイオサイエンス振興財団	2018 吉岡充弘、他1名
加藤記念国際交流助成	25
日本医療研究開発機構: 障害者対策総合研究開発事業	2016~2018 久住一郎 (代表: 功刀浩、他1名)
脳脊髄液サンプルを用いたうつ病バイオマーカーの開発	700
AMED	2018~2020 久住一郎 (代表: 中込和幸、他1名)
精神疾患レジストリの構築・統合により新たな診断・治療法を開発するための研究	1,000

河原純一郎. (2018). 基礎心理学実験法ハンドブック. 朝倉書店.
國松淳・田中真樹. (2018). 北医誌 93: 94 BAY: 自発的運動タイミングへの大脳基底核と小脳の異なる関与.
瀧本彩加. (2018). 求め合うこころ-人間と伴侶動物が育んできた絆-. 鈴木幸人編. 恋する人間-人文学からのアプローチ. 213-244. 北海道大学出版会・北海道.
瀧本彩加・友永雅己. (2018). 社会的知性に関わる方法. 坂上貴之・河原純一郎・木村英司・三浦佳世・行場次朗・石金浩史編. 基礎心理学実験法ハンドブック. 372-373. 朝倉書店・東京.
瀧本彩加・友永雅己. (2018). 感情に関わる方法. 坂上貴之・河原純一郎・木村英司・三浦佳世・行場次朗・石金浩史編. 基礎心理学実験法ハンドブック. 374-375. 朝倉書店・東京.
竹谷隆司・田中真樹. (2018). 第5章6節「注意の神経メカニズム」, 7節「注意の障害」. 新感覚・知覚心理学ハンドブック. 誠信社・東京.
田中真樹. (2018). 第57章「小脳と大脳基底核の運動全般における役割」(邦訳). ガイトン生理学原著13版. 645-659. エルゼビア・ジャパン株式会社.
渡辺雅彦. (2018). 組織化学における抗体作成法: 融合蛋白と合成ペプチドを組合せた実験戦略. 第43回組織細胞化学講習会実行委員会編. 組織細胞化学2018. 121-134. 日本組織細胞化学会.

【学術雑誌（国際誌）】

- Ageta-Ishihara, N., Konno, K., Yamazaki, M., Abe, M., Sakimura, K., Watanabe, M., & Kinoshita, M. (2018). CDC42EP4, a perisynaptic scaffold protein in Bergmann glia, is required for glutamatergic tripartite synapse configuration. *Neurochemistry international*, **119**, 190-198.
- Cai, C., Ogawa, K., Kochiyama, T., Tanaka, H., & Imamizu, H. (2018). Temporal recalibration of motor and visual potentials in lag adaptation in voluntary movement. *NeuroImage*, **172**, 654-662.
- Dickie, A. C., Bell, A. M., Iwagaki, N., Polgár, E., Gutierrez-Mecinas, M., Kelly, R., Lyon, H., Turnbull, K., West, S. J., Etlin, A., Braz, J., Watanabe, M., Bennett, D. L. H., Basbaum, A. I., Riddell, J. S., & Todd, A. J. (2018). Morphological and functional properties distinguish the substance P and gastrin-releasing peptide subsets of excitatory interneuron in the spinal cord dorsal horn. *Pain*, **160** (2), 442-462.
- Horinouchi, T., Sakurai, K., Kurita, T., Takeda, Y., Yoshida, Y., Akiyama, H., Fukushima, K., & Kusumi, I. (2018). Seizure manifesting as a reaching/grasping movement in a patient with post-traumatic epilepsy. *Clinical Case Reports*, **6** (12), 2271-2275.
- Horita, Y., & Takezawa, M. (2018). Cultural Differences in Strength of Conformity Explained Through Pathogen Stress: A Statistical Test Using Hierarchical Bayesian Estimation. *Frontiers in psychology*, **9**, 1921, doi: 10.3389/fpsyg.2018.01921.
- Huang, J., Polgár, E., Solinski, H. J., Mishra, S. K., Tseng, P. Y., Iwagaki, N., Boyle, K. A., Dickie, A. C., Kriegbaum, M. C., Wildner, H., Zeilhofer, H. U., Watanabe, M., Riddell, J. S., Todd, A. J., & Hoon, M. A. (2018). Circuit dissection of the role of somatostatin in itch and pain. *Nature neuroscience*, **21** (5), 707-716.
- Inaba, M., & Takahashi, N. (2019). Linkage Based on the Kandori Norm Successfully Sustains Cooperation in Social Dilemmas. *Games*, **10** (1), doi:10.3390/g10010010.
- Inukai, T., & Kawahara, J. (2018). Sex differences in temporal but not spatial attentional capture. *Frontiers in Psychology-Cognition*, **9** (1893), doi: 10.3389/fpsyg.2018.01893.
- Itabashi, T., Arima, Y., Kamimura, D., Higuchi, K., Bando, Y., Takahashi-Iwanaga, H., Murakami, M., Watanabe, M., Iwanaga, T., & Nio-Kobayashi, J. (2018). Cell- and stage-specific localization of galectin-3, a β -galactoside-binding lectin, in a mouse model of experimental autoimmune encephalomyelitis. *Neurochemistry international*, **118**, 176-184.
- Ito, M., Matsuzaki, N., & Kawahara, J. (2018). Measurement of mood states following light alcohol consumption: Evidence from the Implicit Association Test. *Behavioral Sciences*, **8** (9), doi:10.3390/bs8090079.
- Kano, M., Twatanabe, T., Uesaka, N., Watanabe, M. (2018). Multiple phases of climbing fiber synapse elimination in the developing cerebellum. *Cerebellum*, **17**, 722-734.
- Kaplan, E., Zubedat, S., Radziszewsky, I., Valenta, A. C., Rechnitz, O., Sason, H., Sajrawi, C., Bodner, O., Konno, K., Esaki, K., Derdikman, D., Yoshikawa, T., Watanabe, M., Kennedy, R. T., Billard, J. M., Avital, A., & Wolosker, H. (2018). ASCT1 (Slc1a4) transporter is a physiologic regulator of brain d-serine and neurodevelopment. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America*, **115** (38), 9628-9633.
- Kikuchihiro, S., Sugio, S., Tanaka, K. F., Watanabe, T., Kano, M., Yamazaki, Y., Watanabe, M., & Ikenaka, K. (2018). Ectopic positioning of Bergmann glia and impaired cerebellar wiring in Mlc1-over-expressing mice. *Journal of Neurochemistry*, **147** (3), 344-360.
- Kim, S. J., & Takahashi, T. (2018). Performance in Multi-Armed Bandit Tasks in Relation to Ambiguity-Preference Within a Learning Algorithm. *Frontiers in Public Health*, **4** (27), doi:10.3389/fpubh.2018.00027.
- Krockow, E. M., Takezawa, M., Pulford, B. D., Colman, A. M., Smithers, S., Kita, T., & Nakawake, Y. (2018). Commitment-enhancing tools in Centipede games: Evidencing European?Japanese differences in trust and cooperation. *Judgment and Decision Making*, **13** (1), 61-72.
- Kunimatsu, J., Suzuki, T. W., Ohmae, S., & Tanaka, M. (2018). Different contributions of preparatory activity in the basal ganglia and cerebellum for self-timing. *eLife*, **7**, e35676.
- Kushima, I., Aleksic, B., Nakatochi, M., Shimamura, T., Okada, T., Uno, Y., Morikawa, M., Ishizuka, K., Shiino, T., Kimura, H., Arioka, Y., Yoshimi, A., Takasaki, Y., Yu, Y., Nakamura, Y., Yamamoto, M., Iidaka, T., Iritani, S., Inada, T., Ogawa, N., Shishido, E., Torii, Y., Kawano, N., Omura, Y., Yoshikawa, T., Uchiyama, T., Yamamoto, T., Ikeda, M., Hashimoto, R., Yamamori, H., Yasuda, Y., Someya, T., Watanabe, Y., Egawa, J., Nunokawa, A., Itokawa, M., Arai, M., Miyashita, M., Kobori, A., Suzuki, M., Takahashi, T., Usami, M., Kodaira, M., Watanabe, K., Sasaki, T., Kuwabara, H., Tochigi, M., Nishimura, F., Yamasue, H., Eriguchi, Y., Benner, S., Kojima, M., Yassin, W., Munesue, T., Yokoyama, S., Kimura, R., Funabiki, Y., Kosaka, H., Ishitobi, M., Ohmori, T., Numata, S., Yoshikawa, T., Toyota, T., Yamakawa, K., Suzuki, T., Inoue, Y., Nakaoka, K., Goto, Y. I., Inagaki, M., Hashimoto, N., Kusumi, I., Son, S., Murai, T., Ikegame, T., Okada, N., Kasai, K., Kunimoto, S., Mori, D., Iwata, N., & Ozaki (2018). Comparative Analyses of Copy-Number Variation in Autism Spectrum Disorder and Schizophrenia Reveal Etiological Overlap and Biological Insights. *Cell Reports*, **24** (11), 2838-2856.
- Kusumi, I., Arai, Y., Okubo, R., Honda, M., Matsuda, Y., Matsuda, Y., Tochigi, A., Takekita, Y., Yamanaka, H., Uemura, K., Ito, K., Tsuchiya, K., Yamada, Y., Yoshimura, B., Mitsui, N., Matsubara, S., Segawa, Y., Nishi, N., Sugawara, Y., Kako, Y., Shinkawa, I., Shinohara, K., Konishi, A., Iga, J., Hashimoto, N., Inomata, S., Tsukamoto, N., Ito, H., Ito, Y. M., & Sato, N. (2018). Predictive factors for hyperglycaemic progression in patients with schizophrenia or bipolar disorder. *BSJPsych Open*, **4**, 454-460.
- Luján, R., Aguado, C., Ciruela, F., Arus, X. M., Martín-Belmonte, A., Alfaro-Ruiz, R., Martínez-Gómez, J., de la Ossa L., Watanabe, M., Adelman, J. P., Shigemoto, R., & Fukazawa, Y. (2018). SK2 Channels Associate With mGlu α Receptors and CaV2.1 Channels in Purkinje Cells. *Frontiers in cellular neuroscience*, **12**, 311.
- Mao, W., Salzberg, A. C., Uchigashima, M., Hasegawa, Y., Hock, H., Watanabe, M., Akbarian, S., Kawasaki, Y. I., & Futai, K. (2018). Activity-Induced Regulation of Synaptic Strength through the Chromatin Reader L3mbtl1. *Cell reports*, **23** (11), 3209-3222.
- Matsuo, M. (2018). Effects of team unlearning on employee creativity: The mediating effect of individual reflection. *Journal of Workplace learning*, **30** (7), 531-544.
- Matsuo, M. (2018). Effect of learning goal orientation on work engagement through job crafting: A moderated mediation approach. *Personnel Review*, **48** (1), 220-233.
- Matsuo, M. (2018). How does managerial coaching affect individual learning? The mediating roles of team and individual reflexivity. *Personnel Review*, **47** (1), 118-132.
- Matsuo, M. (2018). Goal orientation, critical reflection, and unlearning: An individual-level study. *Human Resource Development Quarterly*, **29**, 49-66.
- Matsuo, M., Minami, C., & Matsuyama, T. (2018). Social influence on innovation resistance in internet banking services. *Journal of Retailing and Consumer Services*, **45**, 42-51.
- Morató, X., Luján, R., Gonçalves, N., Watanabe, M., Altafaj, X., Carvalho, A. L., Fernández-Dueñas, V., Cunha, R. A., & Ciruela, F. (2018). Metabotropic glutamate type 5 receptor requires contactin-associated protein 1 to control memory formation. *Human molecular genetics*, **27** (20), 3528-3541.
- Munos Torrecillas, M. J., Rmbaud, S. C., & Takahashi, T. (2018). Self-Control in Intertemporal Choice and Mediterranean Dietary Pattern. *Frontiers in Public Health*, **6** (176), doi: 10.3389/fpubh.2018.00176.

- Nakamura, K., Takimoto-Inose, A., & Hasegawa, T. (2018). Cross-modal perception of human emotion in domestic horses (*Equus caballus*). *Scientific Reports*, **8**, 8660.
- Nonomura, S., Nishizawa, K., Sakai, Y., Kawaguchi, Y., Kato, S., Uchigashima, M., Watanabe, M., Yamanaka, K., Enomoto, K., Chiken, S., Sano, H., Soma, S., Yoshida, J., Samejima, K., Ogawa, M., Kobayashi, K., Nambu, A., Isomura, Y., & Kimura, M. (2018). Monitoring and Updating of Action Selection for Goal-Directed Behavior through the Striatal Direct and Indirect Pathways. *Neuron*, **99** (6), 1302-1314.
- Notartomaso, S., Nakao, H., Mascio, G., Scarselli, P., Cannella, M., Zappulla, C., Madonna, M., Motolese, M., Gradini, R., Liberatore, F., Zonta, M., Carmignoto, G., Battaglia, G., Bruno, V., Watanabe, M., Aiba, A., & Nicoletti, F. (2018). Glu1 Receptors Monopolize the Synaptic Control of Cerebellar Purkinje Cells by Epigenetically Down-Regulating mGlu5 Receptors. *Scientific reports*, **8**, (1), 13361.
- Okubo, R., Koga, M., Katsumata, N., Odamaki, T., Matsuyama, S., Oka, M., Narita, H., Hashimoto, N., Kusumi, I., Xiao, J., & Matsuoka, Y. J. (2018). Effect of bifidobacterium breve A-1 on anxiety and depressive symptoms in schizophrenia: A proof-of-concept study. *Journal of Affective Disorders*, 377-385.
- Péterfi, Z., Farkas, I., Denis, R. G. P., Farkas, E., Uchigashima, M., Füzesi, T., Watanabe, M., Lechan, R. M., Liposits, Z., Luquet, S., & Fekete, C. (2018). Endocannabinoid and nitric oxide systems of the hypothalamic paraventricular nucleus mediate effects of NPY on energy expenditure. *Molecular metabolism*, **18**, 120-133.
- Qi, I., & Wada, H. (in press). Effects of decabromodiphenyl ether (BDE-210) on ultrasonic communication during fighting of male adult rats. *Organohalogen Compounds*, **80**.
- Reinbold, C. S., Forstner, A. J., Hecker, J., Fullerton, J. M., Hoffmann, P., Hou, L., Heilbronner, U., Degenhardt, F., Adli, M., Akiyama, K., Akula, N., Arda, R., Arias, B., Backlund, L., Benabarre, A., Bengesser, S., Bhattacharjee, A. K., Biernacka, J. M., Birner, A., Marie-Claire, C., Cervantes, P., Chen, G. B., Chen, H. C., Chillotti, C., Clark, S. R., Colom, F., Cousins, D. A., Cruceanu, C., Czarski, P. M., Dayer, A., Étain, B., Falkai, P., Frisén, L., Gard, S., Garnham, J. S., Goes, F. S., Grof, P., Gruber, O., Hashimoto, R., Hauser, J., Herms, S., Jamain, S., Jiménez, E., Kahn, J. P., Kassem, L., Kittel-Schneider, S., Kliwicki, S., König, B., Kusumi, I., Lackner, N., Laje, G., Landén, M., Lavebratt, C., Leboyer, M., Leckband, S. G., López Jaramillo, C. A., MacQueen, G., Manchia, M., Martinsson, L., Mattheisen, M., McCarthey, M. J., McElroy, S. L., Mitjans, M., Mondimore, F. M., Monteleone, P., Nievergelt, C. M., Ösby, U., Ozaki, N., Perlis, R. H., Pfennig, A., Reich-Erkelenz, D., Rouleau, G. A., Schofield, P. R., Schubert, K. O., Schweizer, B. W., Seemüller, F., Severino, G., Shekhtman, T., Shilling, P. D., Shimoda, K., Simhandl, C., Slaney, C. M., Smoller, J. W., Squassina, A., Stamm, T. J., Stopkova, P., Tighe, S. K., Tortorella, A., Turecki, G., Volkert, J., Witt, S. H., Wright, A. J., Young, L. T., Zandi, P. P., Potash, J. B., DePaulo, J. R., Bauer, M., Reininghaus, E., Novák, T., Aubry, J. M., Maj, M., Baune, B. T., Mitchell, P. B., Vieta, E., Frye, M. A., Rybakowski, J. K., Kuo, P. H., Kato, T., Grigoriou-Serbanescu, M., Reif, A., Del Zompo, M., Bellivier, F., Schalling, M., Wray, N. R., Kelsoe, J. R., Alda, M., McMahon, F. J., Schulze, T. G., Rietschel, M., Nöthen, M. M., & Cichon, S. (2018). Analysis of the Influence of microRNAs in Lithium Response in Bipolar Disorder. *Frontiers in Psychiatry*, **9** (207), doi: 10.3389/fpsy.2018.00207.
- Shahrier, M. A., & Wada, H. (2018). Effects of prenatal ethanol exposure on acoustic characteristics of ultrasonic vocalizations in rat pups. *Neurotoxicology*, **69**, 29-36.
- Shibata, H., & Ogawa, K. (2018). Dorsal premotor cortex is related to recognition of verbal and visual descriptions of actions in the first-person perspective. *Neuroscience letters*, **687**, 71- 76.
- Shiotani, H., Miyata, M., Itoh, Y., Wang, S., Kaito, A., Mizoguchi, A., Yamasaki, M., Watanabe, M., Mandai, K., Mochizuki, H., & Takai, Y. (2018). Localization of nectin-2α at the boundary between the adjacent somata of the clustered cholinergic neurons and its regulatory role in the subcellular localization of the voltage-gated A-type K⁺ channel Kv4.2 in the medial habenula. *The Journal of comparative neurology*, **526**, 9, 1527-1549.
- Suzuki, T.W., & Tanaka, M. (2019). Neural oscillations in the primate caudate nucleus correlate with different preparatory states for temporal production. *Communications Biology*, **2**, doi: 10.1038/s42003-019-0345-2.
- Takács, S., Bardóczy, Z., Skrapits, K., Göcz, B., Vácz, V., Maglóczky, Z., Szűcs, I., Rácz, G., Matolcsy, A., Dhilló, W. S., Watanabe, M., Kádár, A., Fekete, C., Kalló, I., & Hrabovszky, E. (2018). Post mortem single-cell labeling with DiI and immunoelectron microscopy unveil the fine structure of kisspeptin neurons in humans. *Brain structure & function*, **223** (5), 2143-2156.
- Takeya, R., Patel, A. D., & Tanaka, M. (2018). Temporal Generalization of Synchronized Saccades Beyond the Trained Range in Monkeys. *Frontiers in Psychology*, **9** (2172), doi:10.3389/fpsyg.2018.02172.
- Thomson, R., Yuki, M., Talhelm, T., Schug, J., Kito, M., Ayanian, A. H., Becker, J. C., Becker, M., Chiu, C., Choi, H., Ferreira, C. M., Fülöp, M., Gul, P., Houghton-Illera, A. M., Joasoo, M., Jong, J., Kavanagh, C. M., Khutkyy, D., Manzi, C., Marcinkowska, U. M., Milfont, T. L., Neto, F., Von Oertzen, T., Pliskin, R., Martin, A. S., Singh, P., & Visserman, M. L. (2018). Relational mobility predicts social behaviors in 39 countries and is tied to historical farming and threat. *Proceedings of the National Academy of Sciences*, **115** (29), 7521-7526.
- Wada, H., & Qi, I. (in press). Effects of decabromodiphenyl ether (BDE-209) on ultrasonic communication in mating behavior of rats. *Organohalogen Compounds*, **80**.
- Yaguchi, H., Yabe, I., Takahashi, H., Watanabe, M., Nomura, T., Kano, T., Watanabe, M., Hatakeyama, S. (2018). Anti-Sez6l2 antibody detected in a patient with immune-mediated cerebellar ataxia inhibits complex formation of GluR1 and Sez6l2. *Journal of Neurology*, **265** (4), 962-965.
- Yamagata, A., Goto-Ito, S., Sato, Y., Shiroshima, T., Maeda, A., Watanabe, M., Saitoh, T., Maenaka, K., Terada, T., Yoshida, T., Uemura, T., & Fukai, S. (2018). Structural insights into modulation and selectivity of transsynaptic neurexin-LRRTM interaction. *Nature Communications*, **9** (1), 3964.
- Yamauchi, K., & Kawahara, J. (2018). A singleton distractor updates the inhibitory template for visual marking. *Acta Psychologica*, **192**, 200-211.
- Zhang, M. D., Su, J., Adori, C., Cinquina, V., Malenczyk, K., Girach, F., Peng, C., Ernfors, P., Löw, P., Borgius, L., Kiehn, O., Watanabe, M., Uhlén, M., Mitsios, N., Mulder, J., Harkany, T., & Hökfelt, T. (2018). Ca²⁺-binding protein NECAB2 facilitates inflammatory pain hypersensitivity. *The Journal of clinical investigation*, **128** (9), 3757-3768.
- Zhou, L., Hossain, M. I., Yamazaki, M., Abe, M., Natsume, R., Konno, K., Kageyama, S., Komatsu, M., Watanabe, M., Sakimura, K., & Takebayashi, H. (2018). Deletion of exons encoding carboxypeptidase domain of Nna1 results in Purkinje cell degeneration (pcd) phenotype. *Journal of neurochemistry*, **147**, 557-572.

【学術雑誌（国内誌）】

- 伊藤資浩・河原純一郎 (印刷中). 黒色の衛生マスクの着用が印象と魅力の知覚に及ぼす影響. 北海道心理学研究.
- 橋本直樹・久住一郎 (2018). 統合失調症の再発に関わる生物学的基盤. *精神科治療学*, **33** (9), 1037-1042.
- 久住一郎 (2018). 抗精神病薬使用時の血糖モニタリングの頻度はどう考えるべきか? *精神科治療学*, **33** (5), 549-554.
- 久住一郎 (2018). Clozapine の有用性アップデート. *臨床精神薬理*, **21** (11), 1411-1418.
- 前田洋枝・広瀬幸雄・杉浦淳吉・大沼進 (2019). 市民参加による熟議経験の効果と今後の参加意図の規定因としてのエンパワーメント—プランニングセルの参加経験者と未経験者の比較—. *社会安全学研究*, **9**, 187-204.

- 岡松彦 (2018). 緊張病症状にホルモン補充療法が有効であった統合失調症の1例. *精神医学*, **60** (6), 681-686.
- 大沼進・広瀬幸雄・杉浦淳吉 (2019). 賛否二分法を越えた折衷案の受容とその規定因としての手続き的公正: ノイス市におけるトラムの事例調査. *社会安全学研究*, **9**, 89-101.
- 大澤英昭・広瀬幸雄・大沼進・大友章 (2019). 高レベル放射性廃棄物の管理方策の選択に関する意思決定プロセス—スイスと英国を例として—. *社会安全学研究*, **9**, 145-160.
- 大澤英昭・広瀬幸雄・大沼進・大友章司 (2019). 高レベル放射性廃棄物地層処分施設のサイト選定に関する意思決定プロセス—スイスと英国を例として—. *社会安全学研究*, **9**, 161-176.
- 大友章司・広瀬幸雄・大沼進 (2019). 放射性廃棄物の長期管理施設の立地調査受容における感情, 手続き的公正, 信頼が及ぼす影響. *社会安全学研究*, **9**, 177-186.
- 尾崎一郎 (2018). 企画趣旨: 現代法における「人間」の相対化. *法律時報*, **90** (12), 4-5.
- 依藤佳世・安藤香織・大沼進・広瀬幸雄 (2019). 親から子への環境配慮の規範・行動の伝播の縦断的研究. *社会安全学研究*, **9**, 131-143.
- 篠田 朝也 (2018). 企業価値評価における継続価値の算定に関する検討: 実務事例の考察から. *産業経理*, **78** (1), 140-149.
- 篠田 朝也 (2018). 資本予算実務の課題—管理会計の拡張と資本予算実務—. *管理会計学*, **26** (2), 63-75.
- 須山巨基・山田順子・瀧本彩加 (2018). 集団力学研究のこれまでとこれから: 同調と文化拡散に見る、社会心理学と生物学の融合. *実験社会心理学研究*, **58** (2), 161-170.
- Takahashi, T. (2018). Performance in Multi-Armed Bandit Tasks in Relation to Ambiguity-Preference Within a Learning Algorithm. *横幹*, **12** (2), 119-122.
- 竹澤正哲 (2018). 心理学におけるモデリングの必要性. *心理学評論*, **61** (1), 42-54.
- 竹澤正哲 (2019). 集団間葛藤と利他性の進化. *生物科学*, **70** (3), 178-185.
- 横山実紀・大沼進 (2018). 異なる主体が段階的に関わる決定プロセスに関する実験的検討: 手続き的公正の観点から. *社会技術研究論文集*, **15**, 1-11.
- 【学会発表 (国際学会)】**
- Ando, K., Sugiura, J., Ohnuma, S., & Adachi, N. (2018). The Effect of Messages on the Intention to Buy Environmental Products: An Experimental Study. *5th European Conference on Behaviour and Energy Efficiency*.
- Baba, C., Masahito, K., Mitani, T., & Takimoto, A. (2018). Do horses (*Equus caballus*) have social buffering effects to conspecifics? *The 78th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology*.
- Ito, M., & Kawahara, J. (2018). The effects of aroma on capacity and precision of working memory. *Vision Sciences Society*.
- Kamatani, M., & Fukushima, O. (2018). The effect of contact frequency on human individual recognition in horses. *The 78th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology*.
- Kameda M., Ohmae S., & Tanaka M. (2018). Neuronal correlates of beat-based timing in the primate striatum. *Soc Neurosci Abstr. San Diego, 2018*.
- Kawase, M., Tanaka, A., & Takimoto, A. (2018). Does raising experience facilitate multisensory emotion perception of dogs in humans? *The 78th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology*.
- Kitakaji, Y., Ohnuma, S., & Hizen, Y. (2018). The effects of communication among selected members on the behaviors of non-selected members in a social dilemma situation. *29th International Congress of Applied Psychology*.
- Makinae, S., & Kasai, T. (2018). Effects of embodied cues on mental-rotation performance in children. *59th Annual Meeting of Psychonomic Society*.
- Matsushima, Y.; Zhang, F.; Yuki, M. (2019). Why aren't Japanese happy when praised in public?: The roles of relational mobility and tall poppy beliefs. *Society for Personality and Social Psychology*.
- Miyauchi, T. (2018). Rural Community Sustainability and the Commons: A Post-Disaster Experience. *XIX ISA World Congress 2018 Toronto*.
- Ogawa K., Yang H., Imai F., & Imamizu H. (2019). Awake reactivation in the primary sensorimotor cortex after visuomotor learning in humans. *26th annual meeting of the Cognitive Neuroscience Society (CNS)*.
- Ohnuma, S. & Yokoyama, M. (2018). Can back-cast scenario workshop make people future consideration? A case study of making a master plan for environment Sapporo. *29th International Congress of Applied Psychology*.
- Ohtomo, S., Hirose, Y., Osawa, H. & Ohnuma, S. (2018). Psychological approach for siting a NIMBY facility: Assessing public acceptance of a geological repository for radioactive wastes. *29th International Congress of Applied Psychology*.
- Okumura, Y., Kasai, T., Takeya, R., & Murohashi, H. (2018). Early perceptual representations of visual words are manifested differently by task demands: Evidence from ERP measures of spatial attention. *The 19th World Congress of Psychophysiology*.
- Qi, L., & Wada, H. (2018). Effects of decabromodiphenyl ether (BDE-209) on ultrasonic communication during fighting of male adult rats. *Dioxin 2018*.
- Sasamori H., Ohmura Y., & Yoshioka M. (2018). NORADRENALINE REUPTAKE INHIBITION INCREASES CONTROL OF IMPULSIVE ACTION BY ACTIVATING D1-LIKE RECEPTORS IN THE INFRALIMBIC CORTEX.. *15th International Regional (Asia) ISBS Neuroscience and Biological Psychiatry "Stress and Behavior" Conference*
- Sasamori, H., Ohmura, Y., & Yoshioka, M. (2018). Norepinephrine Reuptake Inhibition Enhances the Control of Impulsivity by Activating D1-Like Receptors in the Infralimbic Cortex. *American College of Neuropsychopharmacology Annual Meeting*
- Shahrier, M. A., & Wada, H. (2018). Acoustic characteristics of ultrasonic vocalizations in rat pups prenatally exposed to ethanol. *International Conference on Alcohol and Drugs*
- Suzuki, W. T., & Tanaka M. (2018). Contextual changes in corticostriatal transmission during time production in monkeys. *Soc Neurosci Abstr. San Diego, 2018*.
- Takeya R., & Tanaka M. (2018). Sensory prediction signals in the primate cerebellar nuclei during synchronized saccades. *The 75th FUJIHARA Seminar*.
- Takezawa, M., & Nakata, S. (2018). Does teaching promote the cumulative cultural evolution?: Agent-based simulations with computational models of teaching. *The 2nd conference of Cultural Evolution Society*.
- Takezawa, M., & Suyama, M. (2018). Experimental studies on the cumulative cultural evolution of technologies and arts. *The 2018 Conference on Artificial Life*
- Takezawa, M., & Suyama, M. (2018). Cultural Evolution of Artistic Traditions in A Laboratory: Entropy and Aesthetic Preferences. *The 13th Conference of the European Evolution and Human Behaviour Association*.
- Tanaka, M. (2018). Roles of subcortical preparatory signals in self-timing. *The 75th FUJIHARA Seminar*.
- Tanda, T., & Kawahara, J. (2018). Templates for rejection only occur only in early trials in intermixed search arrays. *Vision Sciences Society*
- Ueda, E., & Takimoto, A. (2018). Do horses show some signs of emotional contagion from humans? *The 78th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology*.
- Uno, T., Katakura, T., & Kasai, T. (2018). The left lateralization of print-specific negativity depends on visual attention in competitive stimuli. *10th Annual Meeting of Society for the Neurobiology of Language*.

- Wada, H., & Qi, I. (2018). Effects of decabromodiphenyl ether (BDE-209) on ultrasonic communication in mating behavior of rats. *Dioxin 2018*.
- Yamauchi, K., & Kawahara, J. (2018). Stronger top-down control due to preview visual search produces distractor suppression. *Vision Sciences Society*.
- Yuki, M., Yamamoto, S., & Tsuji, S. (2018). Greater relational mobility is associated with stronger empathic concern: An adaptationist perspective. *The 24th Congress of the International Association for Cross-Cultural Psychology*.
- Zhengfei, H., Nishida, S., Yang, Y., Madden-Lombardi, C., Ventre-Dominey, J., Dominey, P. F., & Ogawa K. (2019). Common neural system for sentence comprehension across languages: A Chinese-Japanese bilingual study. *26th annual meeting of the Cognitive Neuroscience Society (CNS)*.
- 【学会発表（国内学会）】**
- 安藤香織・杉浦淳吉・大沼進・安達菜穂子 (2018). 他者を説得することが省エネ行動への態度・意図に及ぼす効果：説得納得ゲームを用いて. 日本シミュレーション&ゲーミング学会全国大会報告集 2018 年秋号.
- 伊藤資浩・河原純一郎 (2018). 時空間次元における探索・隠蔽のメタ認知. 日本基礎心理学会第 37 回大会.
- 伊藤資浩・宮崎由樹・河原純一郎 (2018). 着用する衛生マスクの色が印象と魅力の知覚に及ぼす影響. 北海道心理学会第 65 回大会.
- 伊藤資浩・山内健司・河原純一郎 (2018). 課題非関連な価値ある実物の単純存在効果. 日本心理学会第 82 回大会.
- 今井史・小川健二 (2018). イメージ内容の実現性、身体性が視覚イメージ鮮明性に及ぼす効果. 日本イメージ心理学会第 19 回大会.
- 宇土仁木 (2018). 人工透析の継続に配慮を要したアルツハイマー型認知症の 1 例. 第 29 回日本サイコネフロジー研究会.
- 大沼進・横山実紀 (2018). 多段階市民参加プロセスによる政策決定：札幌市環境基本計画策定事例. 2018 年度人工知能学会全国大会(第 32 回)
- 大沼進・広瀬幸雄・大澤英昭・大友章司・横山実紀 (2018). 無知のヴェールによる決定方法は社会的受容を高めるか？日本における高レベル放射性廃棄物地層処分候補地選定を題材とした仮想シナリオ調査. 第 31 回日本リスク研究学会年次大会.
- 岡松彦 (2018). うつ病患者における過食傾向の有無とミルタザピンの継続率に関する検討. 第 15 回日本うつ病学会総会.
- 河西哲子 (2018). 早い処理過程の可視化と個人差. 東海心理学会平成 30 年第 1 回研究例会.
- 河西哲子・蒔苗詩歌・北城圭一・藤亮裕 (2018). 視覚的統合への時間的予測の効果は健常者の自閉症傾向により変動する. 日本認知心理学会第 16 回大会.
- Kameda, M., & Tanaka, M. (2018). Comparison of neuronal activity between the striatum and cerebellum for beat-based timing. 第 41 回日本神経科学大会.
- 篠田朝也 (2018). 原価企画の実験研究トライアル. 日本管理会計学会フォーラム
- 柴田寛・小川健二 (2018). 動作の視覚的及び言語的表象の生成に関与する脳内基盤の検討. 日本心理学会第 82 回大会
- 朱瑤・大沼進. (2018). 共通運命が集団間葛藤を超えた協力にもたらす効果：仮想世界ゲームを用いた検討. 第 59 回日本社会心理学会大会
- 朱瑤・大沼進 (2018). 仮想世界ゲームにおける共通運命と地域間協力の社会的表象過程. 日本シミュレーション&ゲーミング学会全国大会報告集 2018 年秋号
- 杉浦淳吉・安藤香織・Hübner, G.・Woznica, A.・安達菜穂子・大沼進(2018). 説得納得ゲームにおける説得方略の統制による環境行動の促進の検討. 日本シミュレーション&ゲーミング学会全国大会報告集 2018 年秋号.
- 須山巨基・仁科国之 (2018). 多角的検証に根ざした社会心理学の新たな可能性に向けて—若手による若手のための—. 日本社会心理学会第 59 回大会
- 高橋泰城 (2018). 行動経済学からみたベーシックインカム制度. 行動経済学会第 12 回大会.
- 高橋泰城 (2018). 神経経済学・量子意思決定論による行動分析の展開. 日本行動計量学会第 46 回大会.
- Takeya, R., & Tanaka, M. (2018). 同期眼球運動の自発的な分節化. 第 12 回 Motor Control 研究会.
- 館石和香葉・稲葉美里・高橋伸幸 (2018). 信頼する意図の伝達が信頼性に与える効果. 日本人間行動進化学会第 11 回大会.
- Tanaka, M. (2018). 脳の研究ってどんなの？立命館慶祥高校 SSDay.
- Tanaka, M. (2018). 運動タイミングを決める皮質下機構. 日本生体医工学会大会オーガナイズドシンポジウム「マルチモーダル脳情報研究の最前線～基礎から応用まで～」
- 張鳳芝・結城雅樹 (2018). 出る杭が打たれる社会の人々は人前で褒められたくない. 日本社会心理学会第 59 回大会.
- 土田修平・竹澤正哲 (2018). 協力と罰の共進化をもたらす罰に対する感受性に関する理論的検討. 日本人間行動進化学会第 11 回年次大会.
- 土田修平・中島彩花・堀田結孝・竹澤正哲 (2018). 強化学習モデルを用いた協力行動の個人差の検討. 日本社会心理学会第 59 回大会
- 唐雨婷 (2018). 管理会計における人的資源の概念について. 日本財務管理学会.
- 中田星矢・竹澤正哲. (2018). 長期的な教育は技術の累積的進化に寄与するのか？：教育の計算論モデルによる検討. 日本人間行動進化学会第 11 回年次大会.
- 中田星矢・竹澤正哲 (2018). 教育が累積的文化進化に与える影響 計算論モデルを用いたコンピュータ・シミュレーション. 日本社会心理学会第 59 回大会.
- 西田周平・小川健二 (2018). 感覚運動皮質における指運動の実行と観察間での共有表象. 日本認知心理学会第 16 回大会.
- 本間祥吾・竹澤正哲 (2018). 強化学習モデルによる協力傾向の個人差の探索的検討. 日本人間行動進化学会第 11 回年次大会.
- 本間祥吾・竹澤正哲 (2018). 罰の予期は規範の内面化を説明できるか？：強化学習モデルを用いた実証的検討. 日本社会心理学会第 59 回大会.
- 本間祥吾・竹澤正哲 (2018). 強化学習モデルによる協力傾向の個人差の探索的検討. 第 22 回実験社会科学カンファレンス.
- 前澤知輝・河原純一郎 (2018). エコロケーションによる物体検出感度と音の発出回数に及ぼす距離の影響. 第 10 回多感覚研究会.
- 前澤知輝・河原純一郎 (2018). 晴眼者のエコロケーション感度に及ぼす距離の影響. 日本基礎心理学会第 37 回大会.
- 蒔苗詩歌 (2018). 特別支援教育における発達障害への実験的接近 (5) ～発達における身体の役割～. 日本特殊教育学会第 56 回大会.
- 蒔苗詩歌・安達潤 (2018). 課題非関連な触覚が認知的柔軟性に及ぼす影響—感覚過敏特性との関連から—. 日本心理学会第 82 回大会.
- 蒔苗詩歌・河西哲子・北城圭一 (2018). 事象関連電位を用いた特徴類似性による群化過程の追跡. 日本認知心理学会第 16 回大会.
- 水鳥翔伍・大沼進 (2018). 自動車に依存しない移動手段利用意図の心理モデルの検討—真駒内地区における事例調査—. 第 15 回環境情報科学ポスターセッション.

山縣豊樹・片山順一・村田明日香 (2018). コンピュータ制御の排斥者が情緒的メッセージ作用へ与える影響. 日本認知心理学会第 16 回大会.

山縣豊樹・片山順一・村田明日香 (2018). 情緒的サポートメッセージが社会的排斥下の認知的処理に与える影響-ERPを指標とした検討-. 日本生理心理学会第 36 回大会.

横山実紀・大沼進・広瀬幸雄 (2018). 無知のヴェールは NIMBY 問題の合意形成に何をもたらすか?: 指定廃棄物処分立地ゲームを用いた定性的分析. 日本シミュレーション&ゲーミング学会全国大会報告集 2018 年秋号.

横山実紀・大沼進・水鳥翔伍 (2018). 多段階市民参加による環境政策策定過程の評価と未来志向性: 札幌市環境基本計画策定事例. 日本社会心理学会第 59 回大会.

堀田結孝・竹澤正哲 (2018). 伝染病の蔓延と集団主義傾向の関連の再検討: 階層バイズモデリングによる検証. 日本人間行動進化学会第 11 回年次大会.

渡辺晋也 (2019). 社交不安がうつ病エピソードに伴う自殺念慮に与える影響について. 第 11 回日本不安症学会学術大会.

付録 組織構成員

(2019 年 3 月現在)

(1) 兼務教員一覧

大沼進	文学研究科・教授、 社会科学実験研究センター長
渡辺雅彦	医学研究院・教授、 社会科学実験研究センター長
和田博美	文学研究科・教授
宮内泰介	文学研究科・教授
尾崎一郎	法学研究科附属高等法政教育研究センター・教授
松尾睦	経済学研究院・教授
篠田朝也	経済学研究院・准教授
吉岡充弘	医学研究院・教授
久住一郎	医学研究院・教授
田中真樹	医学研究院・教授
結城雅樹	文学研究科・教授
高橋泰城	文学研究科・准教授
高橋伸幸	文学研究科・准教授
竹澤正哲	文学研究科・准教授
小川健二	文学研究科・准教授
瀧本彩加	文学研究科・准教授
河原純一郎	文学研究科・准教授
河西哲子	教育学研究院・准教授
中島晃	文学研究科・助教

(2) 連携研究員一覧

坂上雅道	玉川大学脳科学研究所、 大学院脳情報研究科・教授
亀田達也	東京大学大学院人文社会系研究科・教授
増田貴彦	アルバータ大学・准教授

Harvey	オックスフォード大学・教授
Whitehouse	
Kim-Pong Tam	香港科技大学・准教授
仲 真紀子	立命館大学総合心理学部・教授

(3) 運営委員会委員一覧

大沼進	文学研究科・教授、 社会科学実験研究センター長
渡辺雅彦	医学研究院・教授
川田学	教育学研究院・准教授
奈良雅史	メディア・コミュニケーション研究院・ 准教授
足立伸次	水産学研究院・教授
山村理人	スラブ・ユーラシア研究センター・教授
宮内泰介	文学研究科・教授
尾崎一郎	法学研究科・教授
河西哲子	教育学研究院・准教授
松尾睦	経済学研究院・教授

(4) 研究倫理委員会委員一覧

高橋伸幸	文学研究科・准教授
松尾睦	経済学研究院・教授
石井敬子	名古屋大学情報学研究科・准教授
河合正人	北方生物圏フィールド科学センター・ 准教授

(5) 点検評価委員会委員一覧

大沼進	文学研究科・教授、 社会科学実験研究センター長
結城雅樹	文学研究科・教授
石井敬子	名古屋大学情報学研究科・准教授 (外部委員)
谷口 貢	文学研究科・文学部事務長



社会科学実験研究センター